

カラー
エクスプレス

Digital Prepress Information

Color Express



Top Interview キュンターツォーン (ライノタイプ・ヘル株式会社 代表取締役社長)

User Report 株式会社リクルートコンピュータプリント、株式会社日本カラーエンジニアーズ

No.1

1993

DTPとハイエンドを融合するオープンなシステム環境づくりでプリプレス産業の発展をめざす

ギンクスター・ツォーン
ライノタイプ・ヘル株式会社代表取締役社長



●プロフィール
1953年3月ドイツ・ボン生まれ。
78年、ケルン技術学校で写真工学の学位を取得し卒業。同年、写真業界大手のポラロイドコーポレーションに入社。ドイツにおける産業用イメージング製品のプロダクトマネージャーとして活躍。その後、オランダ・アムステルダム、ヨーロッパ本部にてヨーロッパの産業用イメージング製品のマーケティングマネージャーに抜擢される。
85年、ドイツ・エシュボーンにあるライノタイプ・ヘルAGに入社。世界中のハードウェアのOEM販売、フォントおよび特許のライセンスなどを扱うシニアマネージャーを務める。
趣味は、テニス、モダンジャズ、読書。

■合併は新しい市場出現に対する回答

—最初に、ライノタイプ社とヘル社の合併の理由についてお話し下さい。
★2社を合併しようという考えは、10年前から両社の会長であるクマー博士とヘル博士の二人がグラフィックアーツ産業の将来の方向について話し合いを始めた時からありましたが、様々な理由により進展しませんでした。実際に合併が実現したのは、文字とイメージセッティング分野のリーダーであるライノタイプ社と、カラー製版分野のリーダーであるヘル社が同じ方向をめざしていることが明らかになった1990年終りのことです。

この頃はすでに文字とカラー画像を統合して全てデジタルでカラーページを作成する方法が一般化しつつあり、そこにDTPという新しい手法が現れ、ハイエンドの製版とDTPとの間の境界線がなくなりつつありました。このため、写植業と製版業の業界間の分業体制が急速に崩壊し始めました。従来存在していた壁が取り払われ、両社が対応すべき市場が共通化してきたことが合併への引金でした。お互いが他社の市場へ新たに参入しあうより、両社の持つノウハウと技術を融合することがより論理的であるという結論に達したわけです。ライノタイプ・ヘル社は、研究開発、製造、販売を全世界で統合し、全ての国の現地法人や販売代理店を通じ、文字やカラー画像の入力からページ編集、カラーレタッチ、出力までも含むDTPからハイエンドまでの幅広い製品群を世界中のお客様にお届けできるようになったのです。

合併から約2年経った今日、ライノタイプ・ヘルは強力な「一つ」の会社として10億ドイツマルクの売上を記録し、約4500人の従業員を抱えるまでになりました。研究開発部門には業界最高水準と言える年間1億ドイツマルクを投入しており、92年度には40種以上の新製品を発表することができました。93年もそれ以上の新製品を発表できるでしょう。以前は限られていたライノタイプ製品とヘル製品間の互

換性の問題についても、リンク製品を多岐にわたり開発したことで解決されました。

ライノトロニック630、830、930、クロマグラフS2000、ライノカラー3、クロマグラフS3500、S3700、S3800といった新製品についても、既存の製品と互換性を持ち、現在お使いのシステムの中に統合できるのはもちろんのことです。各製品群はそれぞれがフレキシブルにコミュニケーションできるだけでなく、他社システムとのインタフェースをオープンにしているため、お客様が現在お使いの設備を活用しつつ最適な製品を自由に選定し組み合わせることが可能です。

以前から両社とも、製品開発の重要な要素の一つとしてポストスクリプトを取り上げてきました。合併後も当社は旧ライノタイプ製品、旧ヘル製品の全製品ラインナップを一つに結ぶ重要な必要不可欠な要素としてポストスクリプトを位置付け、そこから導かれる方向性をライノタイプ・ヘル社としての戦略とすることに変わりはありません。

■時代の流れに即した先行投資が必要

—日本では今、厳しい経済情勢下にありますが、その影響については？

★92年度は不況下にありながら前年比17%アップという過去最高の業績を記録することができました。この理由の一つは多くの新製品を発表できたことにあります。これはまさに2社の合併以来、研究開発に巨額の投資をしてきた成果と言えます。もう一つの理由としては、広告代理店や一般の企業に対するDTPサービスを始めるお客様が多かったことがあげられるでしょう。従来からの製版業とは異なる新しいビジネスに着手するには、比較的静かな時期が絶好の機会だったのでないでしょうか。

こうしたお客様には新型のポストスクリプトイメージセッター、新型のカラー平面スキャナ・クロマグラフS2000やコマックキントッシュデータをクロマックで処理するためのCCMacといったリンク製品を導入していた

1990年、世界最大のフォントメーカーであり、世界で最初にイメージセッターを開発したライノタイプ社と、カラー製版システムの最大手メーカーであるヘル社の合併は、プリプレス業界に大きなインパクトを与えた。その相乗効果（シナジー）は、翌年1991年に、旧ヘル社のスクリーニング技術を「HQS」としてポストスクリプトRIPへ搭載するという形で早くも立証された。以降、両社の高度な技術を融合した「ライノトロニック630、830、930」や「クロマグラフS2000」などの製品が次々と開発され高い評価を得ている。ドイツに本社を置くライノタイプ・ヘル社の日本人であるライノタイプ・ヘル株式会社は、この3月、東京本社内にニュープリプレススタジオをオープンすると同時に、トレーニングセンターを拡充し、今まで以上のサービスとお客様のサポート体制を整えさらなる発展を期している。そこで今後の日本市場への取り組みを含め、ライノタイプ・ヘル社の戦略をギンクスター・ツォーン社長にうかがった。

米では既にかなり進展していますが、日本でも、漢字フォントや日本語アプリケーションの増加に伴い、ここ数年の間に急速に成長すると予測しています。時流に乗り遅れないよう今うちに投資し、早めノウハウを蓄積することが大切です。93年もかなりの伸び率を見込んでいます。

そのため3月には、東京本社に全面改装したプリプレススタジオをオープンします。ここではハイエンドからDTPに至る私どもの全製品ラインナップを展示し、お客様が抱えている課題に対し専門家がアドバイスいたします。また新しいトレーニングセンターも同時にオープンし、オペレータ教育をさらに充実させます。今後システムがますます複雑化していく中、カスタマーサポートはいよいよ重要になるでしょう。

■今後はオープンシステム化への対応がキー

—今後数年間におけるライノタイプ・ヘル社のめざす方向は？

★まず第一に、製品の品質向上、スピードアップ、低価格化です。そのため、ワークステーションに標準プラットフォームを採用したり、ポストスクリプトのようなオープンシステム環境を利用しています。しかし、スキャナやRIP、カラー画像処理、出力レコーダなどのキーとなる技術においては、100年以上にわたり蓄積してきた独自のノウハウと経験を生かし、私ども自身の手で開発していきます。私どもの製品は、今でも非常に高い品質水準に達していますが、最新の高性能ハードとソフトをいち早く取り入れることで製品のコストパフォーマンスをさらに高めてまいります。

その一例がポストスクリプトRIP40/XMOTurboPixに採用したASICです。このRIPは92年のジューボルトテストで業界最高速であると評価されました。今後はワークステーション用の次世代マイクロプロセッサが飛躍的に処理速度を高めてくれること

さらに私どもは、現在、クロ

社と共同で共通のインタフェースプロトコル「IFEN」を開発しております。IFENによりマルチベンダー環境においても簡単にしかも高速でコミュニケーションを行うことが可能です。ユーザが多種多様の設備を保有する状況では、今後、オープンで共通のフォーマットをサポートできないメーカーは生き残ることがますます難しくなるでしょう。また、グラフィック製版の分野では、新しい高速のフロントエンドの登場や文字・画像の統合が進むにつれ、フィルムレス製版へと移行していくでしょう。こうした開発の一つ一つがプリプレス産業のこれからの方向性を打ちだしていく上でメーカーとして必要不可欠なものです。文字とカラー画像を混在させページに貼り込んだり、または面付けされた複数のページを印刷用の刷版に直接焼き付けることは、理論的には今日、既に可能になっているものの、依然として従来の手作業よりも生産性と品質の面で劣っているのが現状です。しかし、「ダイレクトプレート」技術が実用レベルに達する日もそう遠くはないでしょう。

チラシ一つを例にとり考えてみても、フルデジタルによる生産が従来からの方法よりも速くなければ受け入れられません。運用面での多くの問題をまず解決した上で、道具としてシステムのスピードを飛躍的に向上させるなければなりません。ライノタイプ・ヘルはこうした進化の過程で、すべての面においての最先端を担っていくことでしょう。

■今後ますます重要となるトレーニングや教育

—業界ニーズの変化にはどのように対応されているのですか？

★お客様にとっても、また当社の社員にとってもトレーニングや教育の重要性がますます高まっており、それらは新技術の開発と同等の役割を果たすことになるでしょう。また一方では、当社の各製品をさらに使いやすく、しかも習得しやすくすることが私どもの目標でもあります。ワークステーションに簡単なメニュー方式や日本語ユーザーインターフェースを採用したり、多く

の機能を自動化するためのユーザーフレンドリーソフトウェアや、カラーキャンのプロセスをより簡素化する「カラーアシスタント」のようなソフトウェアなどはまさにその実例です。

今後は、日本語を「話す」私どもの製品がますます増えてまいります。ご期待下さい。こうした開発全てが、ますます競争が激化するビジネスにおいて、お客様を最善の方法でサポートし、守るという私どもの目標を支えているのです。この目標を絶えることなく達成していくことこそが、今日のライノタイプ・ヘル社がプリプレス業界でNo.1という結果として現れ、これからもそうあり続けられる原動力であると考えております。

■ここ数年の間に日本でも新しい市場が急成長

—日本のプリプレス業界の動向についてどうお考えですか？

★日本では漢字という特殊なニーズや品質に対しての高度な要求があるものの、業界の動向は他の国とさほど大きな違いはありません。私自身はDTPの市場が今後急速に成長するであろうと考えています。その理由の大きな一つとして、アップルコンピュータが日本市場においてもとても強力なビジネスを展開していることがあげられます。

これからの時代は自動化機能を持つ生産性の高い製品がますます求められると同時に、ハイエンドCEPSとDTPが統合へと向かっていくと考えています。複数のメーカーの製品と簡単にインタフェースを取れないような閉鎖的なシステムは売れなくなるでしょうし、さらに新製品の改良サイクルがますます短くなっている今、製品の持つ互換性がより一層重要になっていくでしょう。

従来の製版業が文字を含んだ完全なフルページを生産できるようにになり、さらに写植業では取り扱い業務にカラー製版のサービスを加え始めています。新たな動向や技術をいち早く取り入れ、ノウハウを確立していくことこそがビジネスチャンスの大幅な拡大につながります。欧米で既に進展しているDTP革命



は、日本では今まさに始まったばかりです。だからこそ、それは大きなビジネスチャンスが開かれているということの意味します。

—最後に、日本で間もなく発表される新製品についてうかがいます。

★2月初めに開催された「PAGE93」でクロマグラフDC3000シリーズのニュースキャナ「S3500」「S3700」「S3800」を発表したばかりです。同時に、日本市場向けの初のサーバ「ライノサーバ4000」も発表しました。今後は、さらに高性能サーバも市場に投入する予定です。新型のポストスクリプトRIPも発表間近ですし、日本のフォントメーカーからライセンスを受け、ライノタイプ・ヘルの製造による漢字フォントの出荷も間もなく開始いたします。

また、新しい時代に対応するカラーシステムも、いよいよ登場してきます。これは、ご好評いただいているクロマコムシリーズをさらに拡充するだけでなく、将来における多くの開発製品のための基盤となるものです。新しいカラーシステム発表と同時に、クロマコム1000オリオン用のソフトウェアもより強化し、2つのシステムは互いに調和して機能するよう考慮されております。

最後に皆様へ申し上げます。当社はこれからどうぞ皆様のご要望にお応えする新製品を発表してまいります。どうかご期待下さい。

株式会社リクルートコンピュータプリント

入力からフィルム出力までの一貫した カラー製版工程にDTPを活用

(株)リクルートコンピュータプリントは週2回発行の就職情報誌「FROM A TO Z」などをMacによるDTPシステムを活用し、制作している。コストメリット追求のため、フィルム出力までの一貫したカラー製版工程を確立。その要としてライノトロニック830を2台導入した。運用して半年、その成果を鶴岡公代表取締役、金子健一営業部長などにお話をうかがった。



鶴岡 公代表取締役

●会社概要

設立 昭和46年2月
資本金 1億2650万円
代表取締役 鶴岡 公
従業員数 824名
売上高 118億1285万円 (1991年度)
事業内容 情報処理とそれに関連する組版処理、ソフトウェア開発および情報処理機器の販売、各種出版物・印刷物の編集制作業務、写植・版下制作、製版および印刷・製本・加工

●従来工程よりローコスト化できるMacシステム

(株)リクルートコンピュータプリントは、リクルートの関連会社として主にグループ各社が発行している各種情報誌の組版・製版および情報システムの開発・運用を行っている。主な業務は、住宅情報誌や就職情報誌の大量の定型的なデータの組版だが、最近、MacとライノトロニックによるDTPサービスも開始した。その理由を鶴岡社長と金子営業部長は次のように語る。「専用機ですとソフトが限られてしまいます。かといってワークステーションではまだMac並の使い勝手のいいものがありません。さらに、従来の写植製版とコスト的に太刀打ちできるものとなると、MacによるDTPシステムしかありません。しかしながら、いろいろシミュレーションした結果、フィルム出力までもっていかないとコスト的に対抗できないことがわかりました」

●ランニングコストからライノトロニックを導入

そのためには安心して使えるイメージセッターが必要となる。「面付が必要だと手作業が残るコスト面でマイナスです。そのため面付不要の大サイ

ズ出力のイメージセッターが必要でした。各社のイメージセッターを比較検討しましたが、安心して使えること、過去の実績、製品開発の姿勢を評価してライノトロニックを導入しました。なかでも、ランニングコストの面でライノトロニックが一番優れていることを評価しました」(金子営業部長)

システムが本格的に稼動して約半年、まだ試行錯誤が続いているという。「お客様のデータの作り方にも様々なレベルがあります。たとえば、トンボ。出力してみたらスミ版にしかトンボが入ってなかったことがありました。また、色の付け方も問題です。お客様が特色でデータを作成してしまうのです。そうすると4版ではなく12版も出力されたりしてしまったり…。フィルム出力まで意識した作り方をしていただかなければなりません」

●稼働率の向上が今後の課題

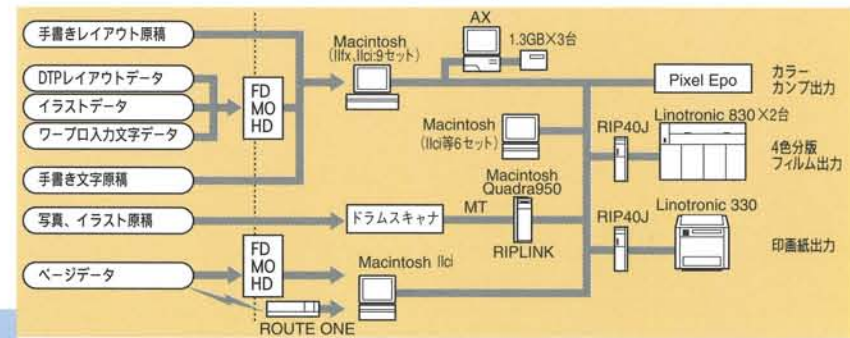
こうした情報を事前にお客さまに伝えておけば、時間を短縮でき、コスト的にも安くできるわけだ。フィルム出力までの一貫

したDTPにはクリアしなければならない課題が多い。パイオニアとしての苦労を味わっておられるようだ。今後の展開として金子部長は次のように語る。

「今までのライノトロニックの運用ではあまり問題はないようです。何よりも、お客様にこのサービスがあることを知っていただくことが先決です。ペイの問題は稼働率を上げることで自ずと解決していきます。要望としてはさらなるRIPのスピードアップでしょうか」



高品質なポジフィルム出力が可能



金子健一営業部長



Macによる完全ページアップデータの作成



ページアップデータと画像データを合成し、フィルム出力準備をおこなう

株式会社日本カラーエンジニアーズ

クロマコムシステムで自然なカラー合成を実現

カラー写真の合成には自然さが要求される。合成が不自然であれば、せっかくのポスターやカタログも製品のイメージダウンにつながりかねない。そこで(株)日本カラーエンジニアーズでは、ライノタイプ・ヘルの高速画像処理システム「クロマコム」を駆使して完成度の高いビジュアル・クリエイティブを提供している。



鈴木宏芳専務取締役

●会社概要

設立 昭和40年12月
資本金 3,000万円
代表取締役 岡村元嗣
従業員数 80名
事業内容 印刷用カラー原稿の作成(レイアウト・スキャナ合成、デュープ合成、ダイトランスファープリント合成、レタッチ、ノーマルデュープ、カラー複写)。フォトライブラリー

●カラー合成のプロが選んだクロマコム

(株)日本カラーエンジニアーズは、印刷用カラー原稿を制作するプロフェッショナル集団として20年以上のキャリアを誇るカラー合成の第一人者である。たとえば、発表前の新車がスイスの山並みを優雅に走っているポスターやカタログを作るには、工場で撮影した新車とスイスの山並みの写真をあたかも1枚の写真であるかのように自然感を損なわずに合成することが必要となる。自動車や化粧品メーカーなどから依頼されるクオリティの高いカラー合成に、レタッチをはじめとするクロマコムの高度な機能を駆使し、合成したイメージを専用機で2次原稿用としてポジカラー出力を行っている。

●クロマコム導入の決め手は品質と技術

「クロマコムを導入した理由は、まず第一にその高いクオリティです。つまり自然なカラー合成ができる機能を持っていたからです。第二にライノタイプ・ヘル社の技術力と姿勢です。つまり我々のニーズに対してできることは確実に応えてくれましたし、できないことはできないと明確な回答をしてくれたことです。はっきりした回答がいただけると対策もたてやすいわけです。もちろんライノタイプ・ヘルのサポート体制がしっかりしているということも大きな要因でした」(鈴木宏芳専務取締役)

●卓越した機能とスピード

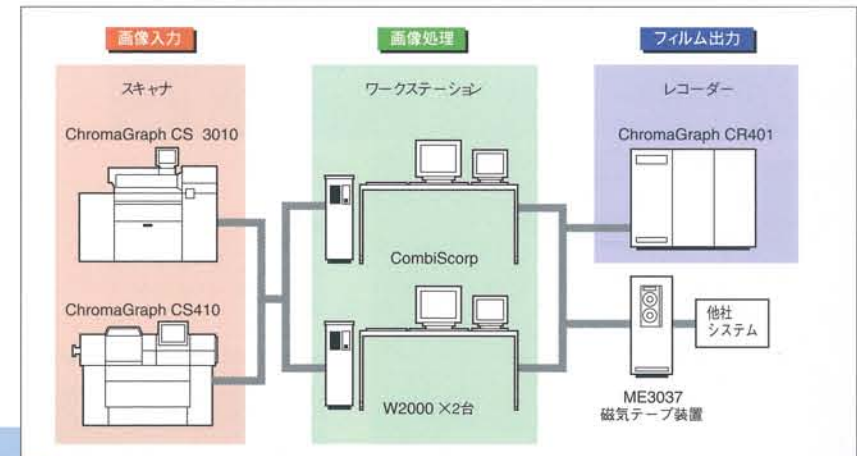
「クロマコムの機能とスピードにはとても満足しています。特にボカシやグラデーションがスムーズにできる点はもちろん、ピクセルコピーや毛抜き合わせの機能も素晴らしいです。6年前に最初のクロマコムを導入して以来、増設し現在では3台のワークステーションをフルに運用しています」(小杉哲公制作部長)

しかし今日では、こうした高品質を求め声がある一方で、安いコストでそこそこの質のカラー合成ができないかというニーズも増えてきたという。そのため、同社ではMacを導入してこうしたニーズにも対応している。

「MacはデザインシステムとSCSIで接続して使用しています。スピードの点で不十分なため、使い方を工夫したり仕事を限定しないとはいけませんが、手軽に高品質のカラー合成を行うことができる点では優れています。それにランニングコストが安いことから、クロマコムで画像処理する以前の中間処理、いわゆる部品づくりの作業にも使用できるため、クロマコムをより高度な作業のためにフル活用できます」(小杉哲公制作部長)

●これからは写真界のデジタル化への対応が課題

フォトCDの発表に見ることができるよう、これからの写真界はデジタル化の方向に向っている。「そうするとCGとの境界もあいまいになってきます。これからは、こうした方向をにらんで人材育成をしなければならないと思っています。とは言っても最後はその人の絵心がものを言いますから、基本的には職人としての技術や姿勢をマスターした人でなければよい仕事できません。基本を身につけた人こそ応用がきくのです。また、メーカーもこうした新しい時代に対応した高機能の安いハードを提供してくれることを望んでいます」(鈴木宏芳専務取締役)



カラー合成やレタッチなど、クオリティの高い画像処理が可能



小杉哲公制作部長



NEW PRODUCT Information

PAGE93開催される

1993年2月3日～5日までの3日間、サンシャインシティコンベンションセンターTokyoにおいてPAGE93が開催され、会期中は約6万人の来場者でにぎわった。今回のテーマは「オープン・プリプレス・システムの創造」。

PAGE93でライノタイプ・ヘル社は、DTPとハイエンドを融合する多彩な新製品を展示、デモンストレーションし、DTPのプロ、製版のプロたちの熱い注目を集めた。ここでは実際に会場まで足を運べなかった方々のためにも、これら新製品の概要を紹介させていただきます。



ニューロボットスキャナ ChromaGraph S3500/S3700



比類なき大量生産を可能にするモジュラーシステムとして定評あるクロマグラフDC3000シリーズに新たに加わったロボットスキャナがS3500/S3700です。お求めやすい価格を実現しながらもバッチスキャン機能を持つS3500はセットアップをスキャナ上で行いますが、プレビューとセットアップを行う「クロマライトP341」とオートセットアップソフト「カラーアシスタント」を利用して、セットアップとスキャンがオートマチックに連続して行えます。S3700はセットアップを行う「クロマセットP330」を利用できるため、スキャナ上でのセットアップが必要なく、フルロボットオペレーションにより高い生産性を実現するコストパフォーマンスの高いモデルです。

- 主な特長
 - ・スキャナを上位機種へアップグレードすることも容易。さらに専用ワークステーションの増設により、処理量に応じて合理的に生産能力を拡大できます。
 - ・高速画像処理システム「クロマコム」とのインタフェースはもちろん、他社CEPSや

DTPとのインタフェースにもスムーズに対応できます。
・ライノタイプ・ヘルならではの広範囲にわたるアプリケーションソフトをご用意。
・ニーズに応じてフレキシブルに機能を追加できます。

- 主な仕様
 - ・原稿：透過/反射、ネガ/ポジ
 - ・光源：ハロゲン
 - ・最大スキャンフォーマット：44 (円周) X 50 (長さ) cm
 - ・スキャンングアパーチャ：38ステップ自動
 - ・ドラム回転スピード：最大15rpm
 - ・倍率範囲：20%～2,000%

コストパフォーマンスに優れたデータサーバ LinoServer4000



荷のないネットワーク化が図れます。

- 主な特長
 - ・OSはネットワークの統合に定評のあるUNIXをベースにし、信頼性に優れた高速の入出力を実現。

- ・磁気テープ、600MB光磁気ディスクや最大370GBの容量を備えたジュークボックス（自動ディスク交換装置）など多様なデータ保存メディアが利用可能。
- ・イーサネットを標準装備。オプションでFDDIオプティカルファイバーネットワークもサポート可能。
- ・RAID-5テクノロジーによるディスクアレイの搭載によりデータロス心配がない。

- 主な仕様
 - ・プロセッサ：MC88100RISC (FPU内蔵)
 - ・プロセッサクロック：33MHz
 - ・プロセッサ数：1～2
 - ・処理速度：39～78MIPS
 - ・キャッシュ容量：32～64KB
 - ・最大メインメモリ：128MB
 - ・最大ディスク容量：15.9GB

ミッドレンジカラーシステム ColorPilot



カラーパイロットは、カラー画像と文字の入力からページ編集、フィルム出力に至るまでの全てをマッキントッシュのプラットフォーム上で統合処理できるミッドレンジカラーシステムです。システムはカラー平面スキャナ「クロマグラフS2000」、オートセットアップ機能やCIELABカラー空間表示による革新的な色修正機能を搭載した「ライノカラー-3」、高性能カラーコンピュータ「MacCTU」、キャリブレーション付きカラーモニター「ライノトロニック」および「ポストスクリプト RIP」で構成され、入力から出力まで一貫した高い品質を実現します。

カラー平面スキャナ ChromaGraph S2000



簡単な操作、高い品質、高い生産性を実現したライノタイプ・ヘル初のカラー平面スキャナがクロマグラフS2000です。専用のソフトウェア「ライノカラー-3」には、プロの技術を集約したオートセットアップ機能「カラーアシスタント」が標準装備され、コンピュータパブリッシングの世界に高品質なカラー画像を提供します。

- 主な特長
 - ・透過、反射、カラー、モノクロ、線画、ポジ、ネガなど各種原稿に幅広く対応
 - ・原稿は回転式セットまた

はトレーにはさみ本体にセットするだけの簡単さ
・原稿のシャープネスと拡大・縮小の倍率計算をリアルタイムで行う新開発のデジタルスキャンプロセス搭載
・6000ピクセル高解像度CCDアレイを2枚採用しハイクオリティな画像再現を実現
・色修正がリアルタイムで行える高性能カラーコンピュータMacCTUをNusbusボードとして利用可能
・原稿に忠実な色再現を行うためのインテリジェントソフトウェア「ライノカラー-3」を標準搭載。

- 主な仕様
 - ・原稿サイズ：13X36cm以下 (透過) 25X36cm以下 (反射)
 - ・アナログ/デジタル変換：14bit/ピクセル
 - ・スキャン解像度：8,000dpi
 - ・原稿濃度レンジ：3.2D
 - ・倍率範囲：20～2,000%

イメージセッターの生産効率をさらにアップ Utility6.0/ProductionTools1.0

ポストスクリプトRIPとライノトロニックでページを出力する際の様々な条件設定をフロントエンドワークステーションから迅速かつ簡単に効率よく行うためのソフトウェアです。フロントエンド側の作業効率アップにより生産効率を飛躍的に高めることができます。



- 主な特長
 - ・チェーン、ラウンド、スクウェア、ラウンドスクウェアなど多彩な網点形状が選択可能。
 - ・HQ5やRTスクリーニング、モノクロ設定、デフォルト設定の中から、自由にスクリーニングプロセスを選択可能。
 - ・バッチデータ処理によりワークステーションの作業効率をアップ。
 - ・スクリーン角度を標準外の組み合わせで配置可能。
 - ・解像度、線数などの条件に合わせて最適なキャリブレーションカーブを自動的に設定

するオートキャリブレーション機能。
・出力フィルムのページ位置決めが簡単に行えるオートページポジション機能。
・裁ちトンボとセンタートンボのコントロール機能。
・ジョブデータ (出力時間、解像度、感材消費量など) をフィルムに記録するスラグライン機能。

豊富なフォントを低コストでキー Linotype-Library "Fonts-Just-in-Time" CD

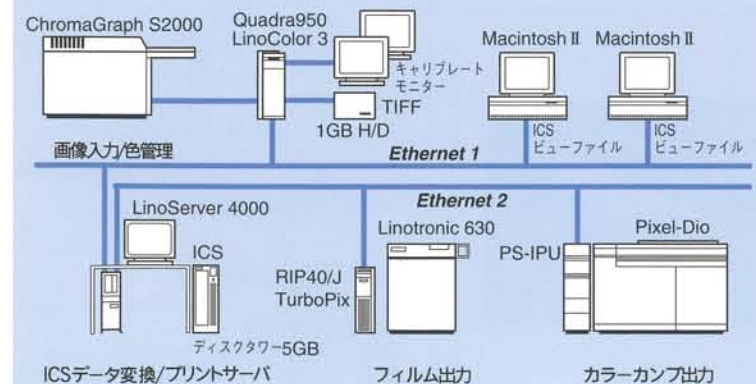


ライノタイプライブラリーのポストスクリプトType1フォントを全てCD-ROMに暗号化して収録・提供します。すべてのシングルウェイトおよび複数のフォントをまとめたフォントパッケージを1枚のCD-ROMに搭載。必要ときに必要なフォントを注文して使用することができます。

- 主な特長
 - ・約1300種類のフォントに加え、いくつかのTrueTypeフォントやライノタイプフォントユーティリティを収録。
 - ・全てのフォントのスクリーンフォントは無料で使用でき

るため、スクリーン上でのデザインや、それを低解像度で出力することも可能。
・高品質な出力に必要なプリンタフォントのアクセスキーを通知。アクセスキーを入力することでフォントの高品質出力が可能。1フォント8,000円から全フォント3,950,000円 (約1300フォント) まで、必要に応じて、1フォント単位から注文が可能。

LinoServer/ColorPilotのワークフロー



Technical Advice

Q ライノタイプ・ヘルのRIPのアップグレードはどのようにすればいいのですか？

A ライノタイプ・ヘルのRIPはRIP30/JからROM交換の必要がなくなりましたが、ソフトのアップグレードおよびトラブル等でRIPのソフトの再ロード作業が必要になるケースがあります。

アップグレード時は使用していた古いバージョンでのキャッシュなどをイレースしてから新しいバージョンのソフトをロードすることが必要です。また、トラブル等を避けるために定期的にフォントキャッシュなどはイレースしておくことが必要です。それでもトラブルが起きた場合には、ライノタイプ・ヘルや販売代理店の指示に従って、次のように再ロードしてください。

- ①RIPのパワーをオフにする。
- ②OSのソフトウェアフロッピーディスクをFDに入れる。
- ③パネル横のサーバスイッチをCにセットする。
- ④パワーをオンにすると“Boot”後ディスプレイに“COPY”と表示されてFDDの

LEDが点灯する。

⑤終了すると“SEL”に表示が変わりFDDのLEDが消灯する。

⑥必要に応じて2枚目、3枚目のフロッピーを上記と同様にFDDに入れストップボタンを押し全部をコピーする。

⑦RIPのスイッチをオフにしてサーバスイッチを元に戻し、再度パワーをオンにすると“Boot”後に通常立ち上げの表示をして“O”を表示してreadyモードになる。

Q RIPに見出し明朝を入れたら、前から入っていたロダンがプリントアウトできなくなった。どうしたらいいのですか？

A 見出し明朝で使用するダウンロードが、ロダンのダウンロードと相性が悪い場合にプリントアウトできないことがあります。その場合は、既にある書体をイレースして見出し明朝を先に入力し次にロダンをインストールして下さい。それでも駄目な場合はRIPのディスクを再フォーマットして全部の書体をコピーし直します（ただし、これはサービスエンジニアが行います）。

The Cover

「ライノタイプ・ヘルのニュースレターだから、ライノタイプ・ヘルならではのデザインをしたい」

Macintoshのデータ（曲線、ビット、文字）を合成できるライノタイプ・ヘルの画像処理システム「クロマコム」を駆使して創刊号らしく表現しようと考えました。

交差する2本の軸はライノタイプ社とヘル社。合併してうまく歯車が噛み合っています。そして今、情報発信急行列車「Color Express」が動き始めました。さらにこのデザインは、いずれ開発されるオリジナル日本語フォントに期待を込めて、平仮名の「あ」を表現しています。

最後に制作データを種明しします。IllustratorとPhotoshopで作成したデータをそれぞれ別個に持ち込み、合成はクロマコム上で行いました。クロマコムデータへの変換はCCMac（Macintoshとクロマコムのインターフェースをとるライノタイプ・ヘルのソフト）で行うことができます。クロマコム上で合成したデータは、クロマグラフR3020レコーダーで4版出力を行いました。見出し部の文字はロダンを使用しました。

表紙デザイン、イラスト、ロゴ：
グラフィック研究所 村上光延

●アンケートのお願い

お客様の利益を拡大することを前提に開発されるライノタイプ・ヘルの製品を支えているのは、皆様の声以外のなものでもありません。もっと声を聞きたい、問題を共に分かちたいとの気持ちから「Color Express」を創刊いたしました。

どうか皆様の「生の声」をお聞かせ下さい。同封のアンケートハガキにご記入の上、平成5年4月末日までにご返信いただいた方の中から、抽選で50名の方にライノタイプ・ヘルのロゴ入りポケットナイフをプレゼント致します。



■Color Express創刊にあたり

ライノタイプ・ヘル株式会社
代表取締役営業本部長 福富 昭

私どもは皆様にお伝えしたいことがいっぱいございます。当社製品に関する情報や業界の動向、課題に対する解決策など、教えあげればきりがございません。これまで当社の営業担当者が皆様の会社を訪問させていただいた際や展示会などが交流の場でもございました。しかしお伝えしたいことのどれだけを皆様にお届けできたかと考えますと、急速に私どもの製品が広まっていく中、とぼしさの感はぬぐえませんが、ましてや皆様の直接の声をお聞きする場となりますと、限られていたとしかいいようがございません。皆様との双方向の情報交換の機会を増やすことは、より重要になっており、現在私どもが最も力を入れて取り組んでいる課題の一つでございます。

その一環として今回、本誌「Color Express」を創刊いたしました。これは現在、私どもの製品をお使いいただいているお客様ばかりでなく、私どもの製品やその開発、プリプレス業界の動向などに関心を持たれている方々にもお届けさせていただくものです。

また、皆様の会社を訪問し、ご自身の会社について、実際のシステム運用例や抱えておられる課題、ひいてはライノタイプ・ヘル社製品選択の理由など、様々なことを語っていただくこともございます。技術的な情報にも力を入れていきます。Q&Aやその他のコーナーに加え、本誌自体の制作も最新のプリプレスを使用し、品質向上においても革新的技術の使用においてもチャレンジしてまいりたいと思います。

内容をより充実させ、実り多い情報をお届けさせていただくためにも、皆様からのご意見、ご要望をお待ち申し上げております。皆様の声を私どもの製品開発に反映するための重要なコミュニケーションメディア「Color Express」を今後ともご愛読いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

本文制作データ

使用スキャナ：クロマグラフS3010+ColorPath3000
編集ソフト：QuarkXPress ver.2.04
フィルム出力：Linotronic930

本誌の表紙以外のページは全てライノタイプ・ヘルのハイエンドカラーレススキャナでカラー写真を入力したデータをMacintosh上で文字と統合編集し、Linotronicでフィルム出力して印刷したものです。画像入力とフィルム出力にご協力いただきました（株）協和グラフィックス様に厚くお礼申し上げます。

※記事中に使われている商品名等は、すべて関連会社の商標、登録商標です。
※本誌からの無断転載を禁じます。

Color Express No.1

1993年3月1日発行
編集・印刷 株式会社イントランス
発行 ライノタイプ・ヘル株式会社マーケティング部
〒170 東京都豊島区東池袋2-32-22
TEL03-5391-6767 FAX03-3590-9610

各位

Color Express (カラーエクスプレス) 創刊のご案内

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、弊社では本年度よりユーザ向け情報誌「ColorExpress」を年3回の予定で発行することとなり、その創刊号をここに送付させていただきました。

内容をより充実させ、実り多い情報をお届けさせていただくためにも皆様からのご意見、ご要望をお待ち申し上げます。

今後とも「ColorExpress」をよろしくご愛読いただけます様、お願い申し上げます。

敬具

1993年3月

ライノタイプ・ヘル株式会社

マーケティング部